



Ansible on Clouds 2.4

GCP で入手できる Ansible Automation Platform のリリースノート

GCP Marketplace で入手可能な Ansible Automation Platform のインストールおよび
設定

Ansible on Clouds 2.4 GCP で入手できる Ansible Automation Platform の リリースノート

GCP Marketplace で入手可能な Ansible Automation Platform のインストールおよび設定

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

GCP Marketplace で入手可能な Red Hat Ansible Automation Platform に関心をお寄せいただきありがとうございます。Ansible Automation Platform は、Ansible を装備した環境に、制御、ナレッジ、委譲の機能を追加して、チームが複雑かつ複数層のデプロイメントを管理できるように支援する商用サービスです。このガイドでは、GCP Marketplace で入手可能な Ansible Automation Platform の新機能、機能強化、バグ修正情報の概要を説明します。

目次

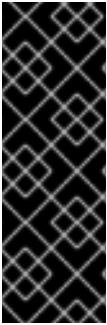
多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	4
第1章 ANSIBLE ON CLOUDS 2.4 のリリースノート	5
1.1. SELF-MANAGED バージョン 2.4.20240215-00 (2024 年 5 月 7 日)	5
1.2. SELF-MANAGED バージョン 2.4.20231024-00 (2023 年 11 月)	5
1.3. SELF-MANAGED バージョン 2.4.20230630-00 (2023 年 8 月 3 日)	5
1.4. SELF-MANAGED バージョン 2.3.20230221-00 (2023 年 5 月 22 日)	7

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

このドキュメントを改善するための提案がある場合、またはエラーを見つけた場合は、テクニカルサポート (<https://access.redhat.com>) に連絡し、**docs-product** コンポーネントを使用して Ansible Automation Platform Jira プロジェクトで Issue を作成してください。



重要

免責事項: このドキュメントに含まれる外部の Web サイトへのリンクは、お客様の利便性のみを目的として提供しています。Red Hat はリンクの内容を確認しておらず、コンテンツまたは可用性について責任を負わないものとします。外部 Web サイトへのリンクが含まれていても、Red Hat が Web サイトまたはその組織、製品、もしくはサービスを保証することを意味するものではありません。お客様は、外部サイトまたはコンテンツの使用 (または信頼) によって生じる損失または費用について、Red Hat が責任を負わないことに同意するものとします。

第1章 ANSIBLE ON CLOUDS 2.4 のリリースノート

このリリースには、GCP Marketplace から Ansible Automation Platform に実装された多数の拡張機能、追加、修正が含まれています。

1.1. SELF-MANAGED バージョン 2.4.20240215-00 (2024 年 5 月 7 日)

Ansible on Clouds のバージョン	AAP バージョン	コントローラー UI のバージョン	Hub UI バージョン	バージョンからのアップグレード	ansible-on-clouds-ops コンテナイメージ
2.4.20240215-00	2.4	4.5.1	4.7.3	2.4.20231024-00	registry.redhat.io/ansible-on-clouds/ansible-on-clouds-ops-rhel9:2.4.20240215

新機能および機能拡張 セキュリティ修正

- さまざまな CVE 修正

バグ修正 非推奨および削除された機能

1.2. SELF-MANAGED バージョン 2.4.20231024-00 (2023 年 11 月)

Ansible on Clouds のバージョン	AAP バージョン	コントローラー UI のバージョン	Hub UI バージョン	バージョンからのアップグレード	ansible-on-clouds-ops コンテナイメージ
2.4.20231024-00	2.4	4.4.6	4.7.3	2.4.20230630-00	registry.redhat.io/ansible-on-clouds/ansible-on-clouds-ops-rhel9:2.4.20231024

新機能および機能拡張 セキュリティ修正

- さまざまな CVE 修正

バグ修正 非推奨および削除された機能

1.3. SELF-MANAGED バージョン 2.4.20230630-00 (2023 年 8 月 3 日)

Ansible on Clouds のバージョン	AAP バージョン	コントローラー UI のバージョン	Hub UI バージョン	バージョンからのアップグレード	ansible-on-clouds-ops コンテナイメージ
2.4.20230630-00	2.4	4.4.0	4.7.1	2.4.20230221-00-00	registry.redhat.io/ansible-on-clouds/ansible-on-clouds-ops-rhel9:2.4.20230630

新機能および機能拡張

- Ansible Automation Platform 2.4 のサポートが追加されました。
- Web サーバーに内部暗号化が追加されました。
 - カスタム証明書の追加がサポートされるようになりました。
- カスタムのタグ付けとラベル付けのサポートが追加されました。
 - デプロイメントが所有するリソースのタグサポートを追加または削除するためのサポートが GCP に追加されました。
- GCP Marketplace の Ansible Automation Platform に、拡張ノードを追加および削除するための操作 Playbook が追加されました。
- バックアップおよび復元機能が改善されました。
 - 複数のバックアップを作成するためのサポートが追加されました。
 - 利用可能なバックアップをリストするための操作 Playbook が追加されました。
 - 選択したバックアップを削除するための操作 Playbook が追加されました。
 - 既存の VPC を復元する機能が追加されました。
- 現在のバージョンを確認する操作機能が追加されました。
 - 操作 Playbook は、操作を開始する前に、操作対象の Ansible Automation Platform 環境が同じバージョンであることを確認するようになりました。

セキュリティ修正

バグ修正

非推奨および削除された機能

以前のリリースで利用可能であった一部の機能が非推奨になるか、削除されました。非推奨の機能は依然として Ansible Automation Platform に含まれており、引き続きサポートされますが、この製品の今後のリリースで削除されるため、新規デプロイメントでの使用は推奨されません。以下は、Ansible Automation Platform 2.4 内で非推奨となって削除された主な機能のリストです。

- オンプレミスコンポーネントの Automation Services Catalog は、Ansible Automation Platform 2.4 以降から削除されます。
- Ansible Automation Platform 2.4 リリースでは、Ansible 2.9 の実行環境コンテナイメージ (ee-29-rhel-8) は、デフォルトで Automation controller 設定にロードされなくなりました。

- 新しい VPC を使用してアプリケーションをデプロイするプロセスは非推奨となり、この機能は今後のリリースで GCP Marketplace の Ansible Automation Platform から削除される予定です。

1.4. SELF-MANAGED バージョン 2.3.20230221-00 (2023 年 5 月 22 日)

Ansible on Clouds のバージョン	AAP バージョン	コントローラー UI のバージョン	Hub UI バージョン	バージョンからのアップグレード	ansible-on-clouds-ops コンテナイメージ
2.3.20230221-00	2.3	4.3.5	4.6.3	2.2.20230215-00	registry.redhat.io/ansible-on-clouds/ansible-on-clouds-ops-rhel8:2.3.20230221

新機能および機能拡張

- Ansible Automation Platform 2.3 のサポートが追加されました。

セキュリティ修正

バグ修正

非推奨および削除された機能



注記

現時点では、Automation Mesh と Event Driven Automation は、セルフマネージド型 Ansible on Cloud オファリングではサポートされていません。

Ansible Automation Platform に関連するその他のリリースノート

- [Red Hat Enterprise Linux 9](#) の最新機能を確認してください。
- 最新の [Ansible Automation Platform 機能](#) の詳細を参照してください。